

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800040		
法人名	メディカルケアサービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム土岐河合 織部		
所在地	岐阜県土岐市泉町河合560-2		
自己評価作成日	令和 2年11月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191800040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191800040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 2年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建で家庭的なイメージのする家屋で、“笑顔あふれる和のホーム”をホームのテーマとしそれぞれのご入居様が笑顔で普通の生活ができるようにサポートしています。  
 入居者様の笑顔の写真を居室入口に貼ることで、毎日笑顔で愛着を持って過ごして頂こうと取り組んでいる。  
 フロアには常に貼り絵などで季節を感じて頂けるよう掲示物を作成し、ご家族への毎月のお便りは、個人へのお手紙と全入居者様が写っている今月の活動報告新聞を、ご家族が笑顔になっていただけるように工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人エリアで取り組んでいる自立支援ケアにより、利用者の昼夜逆転や便秘などの改善へ取り組む他、利用者が自分の出来ることややりたいことに前向きに取り組めるように、毎月の目標を掲げている。また、利用者の思いを汲み取り、その思いをどう実現するかを毎月のミーティングで話し合い、法人のミッションである、予防・改善・緩和を実現させるためのケアを実践している。職員間の協力体制は万全で、介護計画立案に各職員が役割を持ち、動ける体制がある。  
 職員のストレスケアへの取り組みとして、1on1(個別面談)や日常のコミュニケーションを大切にしたメンタルケアに努め、職員が利用者への優しさを忘れないケアの提供が出来るよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、朝夕礼時にMCSミッションを唱和し、常に意識付けをしている。 朝礼時には、職員が本日心がけて行うケアや試みを宣言するようになった	唱和と共にミッションにある「予防、改善、緩和に向けて」を実践する自立支援ケアへを利用者の個々の状態に合わせて取り組む他、職員が取り組みが理解できるよう対話し日常からの働き掛けをおこなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご入居者様の散歩や近所の喫茶店通いを通して、地域の人々へ挨拶を行っている	コロナ禍もあり地域交流が自粛になっているが、散歩や利用者と共に行うゴミ出し時にご近所との挨拶で関係継続を図っている。河川掃除はオーナーと地域の方が担ってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ認知症の理解をして頂ける様に運営推進委員会などで民生委員等への情報発信を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回状況や事故の報告をして意見を募り参考にしている	書面報告や次回の内容確認時の連絡時に意見を聞き、質疑応答や行政からの通知について分かりやすく掲載している。また、活動の写真掲載し、ホームの様子を知ってもらえるように配慮している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症への理解を広げるラン伴への参加(今年(中止)を毎年し、地域とのつながりを大切にしている	民生児童委員引継ぎ顔合わせに参加や、コロナ対策アンケートや通知など行政とのやり取りも多くなっている。包括によるサービス事業所連絡会議の分科会に参加し、各事業所との連絡交流を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の研修と2か月毎の身体拘束チェックシートの実施し意見を出し合うことで職員の意識を強めている	委員会の他、チェックシートによる確認を基に話し合い、課題解決に取り組んでいる。スピーチロックによる抑止を行わないケアについて具体的に検討し、職員の意識付けになっている。また、ストレス緩和に日常から職員の話聞く体制作りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度の研修と2か月毎の虐待チェックシートの実施にて注意喚起し、MCSにおける身体拘束に関する基本指針を話し合うことで防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだが現在も必要性があると思われる ご入居者様はいない。運営推進会議などで地域包括センターの社会福祉士の方へ確認や相談を行って意見を頂いている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により十分な時間をとり説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族様アンケートを実施し、結果改善点等をご家族・職員にお知らせし、玄関に掲示している。三ヶ月に一度、お手紙とともにご家族からのご意見をいただく用紙を送付している	3ヶ月ごとに家族より意見を頂くと共に、日常の電話報告時や来所時に意見を伺っている。ZOOMを使用しての面会継続の他、各利用者の様子と共に写真数枚を掲載した報告を毎月行っている。	検討されているコロナ禍での利用者と家族の面会の在り方や、ホームでの取り組みや状況を、さらに密に伝えていく為に継続的な取り組みが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、ユニット会議や日々の業務時に時間を設けている	法人が行うアンケートやホーム会議で意見を上げる機会がある他、1on1の月2回の面談で、思いや意向、提案など職員一人ひとりの話したい内容を上に伝えることが出来る機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に面談などを適宜実施し職員の状況を確認しており、相談を頂いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修システムで全社員に活用できる環境を整えパソコンやスマートフォンで何時でも研修を受けることができる。また社外においては研修案内や受講を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	病院などの勉強会や市の会議に参加しつながりを設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に利用者担当職員が本人のニーズや思いを聞き出し、毎月の目標を立て日々実現できるよう取り組んでいる。職員同士で情報を共有し、より安全に暮らせるよう配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、アセスメント時には傾聴に努め安心していただけるような対応を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時、入居時に本人、家族と話をする時間を多く掛けてニーズをしっかりと捉えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事、畑仕事を一緒にする事で生活を共にしている関係性を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には常にご入居者様の様子を伝え、その時々判断、意見を伺うようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や喫茶店など、よく行ったお店をお聞きし、一緒に出掛けられるようにしている	家族面会や外出の自粛は続き、外部との関係継続が厳しいため、ホーム内での関係作りに取り組んでいる。職員と利用者、利用者同士がテラスや中庭で共に過ごす時間を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム会議、ユニット会議を月に1度行い話し合いの場を設けている。トランプやカルタなど大人数で行えるレクリエーションを提供しかかわりを深めて頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの近所であるため、散歩時に立ち寄るなど、お声掛けしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中からその方の希望、意向の把握に努めている その中から、目標を作り個別ケアに取り組んでいる	毎月各利用者の思いを担当職員が聞き取り、具体的実現を個人目標として取り組み、毎月のユニット会議で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から今までの生活歴をお聞きしたり、ご家族の話の中から把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察をし、ご自宅で過ごされていた時と同じように過ごしていただきケアプランに挙げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者がユニット会議の前に課題や思いをまとめ、会議で話し合うようにした 計画担当者はそれも参考に介護計画の作成をしている	思いや意向を聞き取り、毎月の目標として掲げ、3ヶ月毎に介護計画を作成している。またモニタリングを毎月ユニットで行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、スマートフォンに日々の様子を記録に残しいつでも情報を共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内サービスに捉われない外部の医療機関や施設との交流や支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ゴミ捨てを行ったり中庭の畑で野菜を育てたりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回の個人往診・集団往診を受け入れている。馴染みの病院にご家族と受診される際には最近の看護記録をご家族に携帯していただき、受診先の医療機関がその方の状態把握ができるように支援している	月2回の協力医の往診と毎週の訪看対応の他、急変時にはホーム職員が対応している。また、専門医受診の家族対応時にも記録を持参してもらい、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連絡ノートを活用し、必要があれば電話で随時報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は適宜お見舞いに伺い、病院関係者より情報をいただき、退院に備えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応指針、看取り介護にかかる指針を説明し、同意を得ている。職員は社内研修を毎年行い、重度化になった場合にも全員が対応できるようにし、医療機関との連携も深めている	今年度、看取り支援は無かったが、研修は実施している。また、看取り開始時には訪看による職員指導があり、職員の不安軽減になっている。入所年数を重ねた方の看取りが多く、ホームでは出来る限りの看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を自ら実施できる様、救命救急講習に参加すると共に、スタッフも一部普通救命講習の研修に参加し実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修を行い、自治会へは運営推進会議で状況を説明し、災害時には協力をお願いしている	火災想定による訓練を実施する他、水害や土砂災害時の避難時の応援が得られるよう自治会との協力体制を作っている。停電への備えもある。職員が救命救急講習を受け、AED対応が行える体制がある。	AEDを地域の資源として活用できるよう、自治会や消防団等に働きかけることで、相互の協力体制強化が図られる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケア研修を実施し、職員は言葉遣いに問題はないか気になる点を話し合い意識をしている	言葉遣いに特に気を使い、職員間でも厳しく注意を払っている。特にスピーチロックへの対応を研修だけでなく、互いに声掛けを行い、現場OJTにて指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定を促すために質問で答えて頂くなど言葉掛けなどに工夫をしている。目標表を作り、毎月どのような生活を送っていきたいか聞き取りを行いケアプランに思いを挙げている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴を含む日常生活全般でご入居者様の希望に沿うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服装を選んで頂き、選択の自由を支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食事の盛り付け、お茶の用意などできる事は一緒にやっていただいている	外食が行えないため、テイクアウト活用や、イベント食として利用者と共に食事やおやつ作製を行っている。利用者の嗜好を日常の中で把握する他、透析食など特別食の対応も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床後すぐにプロテイン飲料を飲む、寒天ゼリーを食べる等それぞれの習慣が継続できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	主に声掛けを行い実行し、磨きの残しが無いか再度チェックしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ホーム会議、ユニット会議などで話し合いを行っており、ホーム内出来ることの実施と医療機関との連携にて個々の改善に役立っている 排泄パターンを理解し、パッドを外すことができた方もみえる	自立支援ケアの取り組みから、下剤の使用減や排泄タイミングが掴みやすくなっている。ケア時には羞恥心に配慮した声掛けや基本となる対応を現場OJTで指導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は午前午後にヨーグルトを提供したり、ご本人の好まれる飲物を多めに提供し摂取して頂けるように工夫をしている。また、フェカリス菌を導入している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングをご入居者様の気持ちに合わせて早めたり遅らせたりしている。入浴回数を増やしたいという希望の入居者様は回数を増やし対応している	日曜を除く毎日午前中に実施し、意向により週3～4回の入浴を実施している。薬用入浴剤でより楽しんで頂くことや入浴を嫌がる利用者への声掛けを工夫し、本人本位の入浴ができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の様子や夜間の睡眠状態を観察し、昼夜逆転を防ぐとともに、日中の休息方法や居室の環境を検討し実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつも見ることのできる所に保管されており、服薬マニュアルに沿って服薬支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除や、食器洗いなどの家事活動を役割としてやっていただいている 個人の目標を作り、実現に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に施設回りに出掛けたりや中庭にテラス席を設けお茶をしたりして過ごしている 現在は中止しているが、近所の喫茶店に通っている	日常の散歩を中心に、中庭で過ごしてもらうなど、コロナ禍でも外気浴を大切にしている。自粛以前は花見などのドライブや喫茶外出等、本人の希望や意向を聞き取り、外出支援を行っていた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてご本人が使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でホームから家族、知人へ電話をしてもらっている パソコンのズームを使用し連絡をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、塗り絵を額に入れたりし、季節を感じることでできる物を用意し一緒に作って楽しんだりしている	居間から中庭を一望出来る大きな窓で、明るさはもちろんのこと、広く解放感が感じられる。大きな木のタペストリーに、四季折々の季節の飾りを利用者と作成し、人目を惹く彩りとなっている。清潔保持も万全であり、共有空間としての問題は感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き共用できる居場所を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく御自宅で過ごしていた時に近づけた設えを用意し、馴染みの道具を持ち込んでいただいている(筆筒や椅子など)	鏡台や椅子、座布団、ベッドなど本人が使い慣れた家具を持ち込み、本人がくつろげる空間となるように、環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には顔写真をつけ、分かりやすくしている。フロア入り口には職員の顔写真を貼り、入居者様にどの職員がいるか分かる様になっている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800040		
法人名	メディカルケアサービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム土岐河合 志野		
所在地	岐阜県土岐市泉町河合560-2		
自己評価作成日	令和 2年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2191800040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2191800040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 2年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てで家庭的なイメージのする家屋で、“笑顔あふれる和のホーム”をホームのテーマとしそれぞれのご入居者様が笑顔で普通の生活ができるようにサポートしています。  
 入居者様の笑顔の写真を居室入口に貼ることで、毎日笑顔で愛着を持って過ごして頂こうと取り組んでいる。  
 フロアには常に貼り絵などで季節を感じて頂けるよう掲示物を作成し、ご家族への毎月のお便りは、個人へのお手紙と全入居者様が写っている今月の活動報告新聞を、ご家族が笑顔になっていただけるように工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、朝夕礼時に運営理念を唱和し、常に意識付けをしている。 朝礼時には、職員が本日心がけて行うケアや試みを宣言するようになった。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご入居者様の散歩や近所の喫茶店通いを通して、地域の人々へ挨拶を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ認知症の理解をして頂ける様に運営推進委員会などで民生委員等への情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回状況や事故の報告をして意見を募り参考にしている。自立支援ケアが始まりそこでの効果も報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症への理解を広げるラン伴への参加を毎年し、地域とのつながりを大切にしている。 今年中止となる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の研修と2か月毎の身体拘束チェックシートの実施にて職員の意識を強めている。 身体拘束廃止委員会を設け、定期的に話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度の研修と2か月毎の虐待チェックシートの実施にて注意喚起し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだが今のところ必要性があると思われるご入居者様はいない。運営推進会議などで地域包括センターの社会福祉士の方へ確認や相談を行って意見を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により十分な時間をとっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族様アンケートを実施し、結果改善点等をご家族・職員にお知らせし、玄関に掲示している。三ヶ月に一度、お手紙とともにご家族からのご意見をいただく用紙を送付している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、ユニット会議や日々の業務時に時間を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に面談などを適宜実施し職員の状況を確認しており、相談を頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修システムで全社員に活用できる環境を整えパソコンやスマートフォンで何時でも研修を受けることができる。また社外においては研修案内や受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	病院などの勉強会や市の会議に参加しつながりを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に利用者担当職員が本人のニーズや思いを聞き出し、今月の目標を立て日々実現できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、アセスメント時には傾聴に努め安心していただけるよいな対応を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時、入居時に本人、家族と話す時間を多く掛けてニーズをしっかりと捉えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事、畑・買い物と一緒にする事で生活を共にしている関係性を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には常にご入居者様の様子を伝え、その時々判断、意見を伺うようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や喫茶店など、よく行ったお店をお聞きし、一緒に出掛けられるようにしている。毎週喫茶店へ行くように努めている。(現在中止)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々職員どうしで話し合っている ユニット会議を月に1度行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの近所であるため、散歩時に立ち寄りなど、お声掛けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中からその方の希望、意向の把握に努めている。 その中から、目標を作り個別ケアに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中やご家族の話の中から把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察、検討している ケアプランに挙げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者がユニット会議で課題が思いをまとめ、話し合うようにした。 計画担当者はそれも参考に介護計画の作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護チェック表を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内サービスに捉われない外部の医療機関や施設との交流や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	よく行った喫茶店やスーパーでお買い物をしていただいている(現在中止)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な主治医の往診を受け入れている 昔からの馴染みの病院にご家族と受診される際には最近の看護記録をご家族に携帯していただき、受診先の医療機関がその方の状態把握ができるように支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連絡ノートを活用している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は適宜お見舞いに伺い、病院関係者より情報をいただき、退院に備えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応指針、看取り介護にかかる指針を説明し、同意を得ている。また、社内研修も毎年行い、医療機関からの支援もいただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を自ら実施できる様、救命救急講習に参加すると共に、スタッフも一部普通救命講習の研修に参加し実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修を行い、自治会へは運営推進会議で状況を説明し、災害時には協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケア研修を実施し、職員は意識をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定を促すために質問で答えて頂くなど言葉掛けなどに工夫をしている ケアプランに思いを挙げている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴を含む日常生活全般でご入居者様の希望に沿うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧など居宅から継続していることは継続して頂くように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、副菜の盛り付け、コップ洗い等、できる事は一緒にやっていたいでいる		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床後すぐに牛乳を飲む、朝はヤクルトを飲む、等のそれぞれの習慣が継続できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	主に声掛けを行い実行してもらっている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ホーム会議、ユニット会議などで話し合いを行っており、ホーム内出来ることの実施と医療機関との連携にて個々の改善に役立てている。布パンツを導入することで皮膚への影響も考えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の少ない方へはゼリー等、形状の違うもので摂っていただけるように工夫をしている。また、フェカリス菌を導入している。自立支援ケアを導入してから頓服の下剤使用がなくなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングをご入居者様の気持ちに合わせて早めたり遅らせたりしている。また入浴剤などを利用して入浴した時の満足度を上げるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の様子や夜間の睡眠状態を観察して日中の休息方法や居室の環境を検討し実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつも見ることのできる所に保管されており、服薬マニュアルに沿って服薬支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除や、食事前のテーブル拭きを役割としてやっていただいている。 個人の目標を作り、実現に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々散歩の声掛けやできるときは中庭で体操をしている。 近所に住んでいた方は馴染の喫茶店に引き続き通っている。(現在中止)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてご本人が使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でホームから家族、知人へ電話をしてもらっている 手紙のやり取りもしてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節を感じることでできる物を用意したり一緒に作って楽しんだりしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き共用できる居場所を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今までご本人が使ってみえた馴染みの道具を持ち込んでいただいている(筆筒や椅子など)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には顔写真をつけ、分かりやすくしている		